

卽今三身之中、浴那箇身答曰、雲門乾屎攢、僧云、滿院薔薇雨濯出架頭錦、答曰、希有世尊、希有世尊、僧禮拜、略下

〔看聞日記〕應永二十五年四月八日、佛生會大光明寺ニ參、浴佛之儀聽聞、三位重有長資等朝臣參詣、經了、予崇光浴佛、三位以下同浴佛、總得菴聽聞、長老對面歸了、

〔諸國圖會〕年中行事大成、三四月上八日、比叡山戒壇堂佛生會、中略當時受戒座蝶の沙汰なし、結夏なるを圖る、參詣夥し、又今日女人を免して、東坂本花摘の社に詣しむ、此所に花堂を造て、誕生釋迦の銅像を安す、平日女人結界なり、花摘の社は、傳教大師の御母、妙德婦人を祭ると云、婦人存生の時、大師に御對面の爲、此所まで登山遣意歟、今日女人の參詣を許すは此意歟、

〔華實年浪草〕四月上戒壇堂開帳、中略紀事曰、四月八日、諸人參詣、女人常不得登、坂本花摘社謂之花摘、三花堂安、小釋迦之銅像、今日四谷之衆徒、東口出仕修法華三昧、謂之卯月會、

○按ズルニ、花摘ノ社ハ、比叡山東坂ノ半腹、卽チ今ノ東坂本村ヨリ上ル所ニアリ、

〔江戸名所圖會〕十四東叡山寛永寺、中略法華堂、中堂の前右の方にあり、普賢菩薩を安す、毎年四月八日、佛生會修行あり、この堂は紀州公の御建

〔孝經棲漫筆〕四花の塔、京師四月八日、づ、じ及び卯の花を、竿の先に結付、九輪の塔のごとくし、家々に立て、花の塔といふ、熱田の花の塔は、剪彩花を多く造る、江戸四月八日には、卯の花を門戸に插意同じ、

〔賤のをだ巻〕一四月八日には、釋迦の誕生とて、小さき盥へ茶を入れ、中に釋迦の誕生のすがたを建、屋根は色々の色紙などにてこしらへ、卯花などを付、ものもらひの坊主が、戸々家々をもち歩行たり、屋敷へも入りたり、一錢二錢づゝの散錢を皆上たり、